

# 琉球大学学術リポジトリ

## 平成27年度（2015）発達支援教育実践センター事業報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2016-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/34488">http://hdl.handle.net/20.500.12000/34488</a>

## 平成27年度（2015）発達支援教育実践センター事業報告

琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターで実施している「トータル支援事業」が本年度で9年の時が過ぎ、10年目に入りました。2006年10月に始まったその取り組みは兼任のセンター長と専任一人の二人のスタッフでスタートした。地域支援事業、人材育成、実践研究という3つの柱の取り組みをどのように進めていけばよいのかと考えて始まったのが「トータル支援事業」である。地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、私たちはこの活動およびその場を「トータル支援教室」と呼んできた。

「トータル支援事業」として「支援・相談活動」、「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、3つの事業を柱として取り組みを実施してきた。そのなかでも「トータル支援教室」は「支援・相談活動」、「実践事例研究会」と有機的連動的に繋がっており、当センターの中心的事業となっている。小さな当センターで「トータル支援事業」を支えてきたのは当センターの「特別研究員」である。当センターでは、子どもたちを支援・教育する現職の教員や専門家を「特別研究員」として位置づけ、ひとつのチームとして支援教育の実践や研究を実施し地域の力になれるよう努めてきた。その「特別研究員」の協力による、子どもたちへの中核的な支援活動の「場」となる「トータル支援教室」の開催は、子どもたちを支援するとともに子どもたちやその保護者から多くのことを学び、そして地域の教員や関連領域の職員、専門家ともに支援教育のあり方を考えてきた。

今まで9年半で147回の支援のための企画案を実践し、そしてその成果を地域に公開したり、論文を執筆し発信してきた。そしてその10年間の「トータル支援教室」の取り組みを1冊の書籍にまとめることとなった。その書籍は5年間に亘る日本財団における「海」に関する事業のなかで、当センターが「海」をテーマにした支援企画を計画し実践を重ねてきた、成果報告を兼ねたもので

ある。そのような種々の事業を通して「トータル支援事業」は発展し、その支援教育の成果と実践研究を積んできた。当センターの特別研究員と「トータル支援事業」を発展させてきた子どもたちとの関わりを通して「個」の特性を多面的に捉え、子どもたちたちのもつ可能性、支援教育の多様性を追求し総合的包括的に支援する上でも、さらに子どもを部分的な能力で見るのではなく、子どもの全体性による能力を捉え、「生きる力」を育む上でも「トータル支援教室」と呼ぶことに意味があることを再確認することとなった。

「トータル支援教室」を中核の活動とする「トータル支援事業」は地域大学を拠点とした地域貢献、教育、研究活動を中心とする第1次段階、「出前支援プログラム」を行う第2次段階「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「相談支援」等の取り組みを定着させ、さらに第3次計画では大学から離れた離島・へき地へ地域連携型支援を目的に位置づけ「協働による子どもたちへの支援および教員、支援者の実践力養成システムの構築」、最終的には第4次計画として「地域主導型の支援体制の構築」を目指してきた（図1）。本年度まで取り組んできた第1次計画から第4次計画までの各ステージの取り組みはセンターと各地域との進捗状況を示す計画段階のみを示すものではなく、多様な連携の形態や方式を示すものとなってきた。第1支援方式（第1次計画）として大学拠点型教育・事業（参加型近隣地域支援）連携支援体制であり、大学を中心として開催している「トータル支援教室」、「発達・教育相談」、「実践事例研究会」等による学校支援・個別支援現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援。第2支援方式（第2次計画）として出前型連携支援体制であり、近隣地域や離島・へき地への「出前支援・出張相談会」、「実践事例研究会」等による支援および実践力養成支援。第3支援方式（第3次計画）として離島・へき地等の地域との協働による支援体制であり、「出前トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「協働会議（情報交換会）」、「出張発達・教育相談会」等による支援および実践力養成。そして第4支援方式（第4次計画）として地域拠点型連携支援体

制であり、離島・へき地地域主導による「地域主導型トータル支援教室」を通した子ども支援および実践力養成支援と4つの支援および実践力養成支援に分けられる。

11月には第4方式として地域拠点型の「トータル支援教室 in 八重山」が八重山教育事務所を中心に石垣市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会との共催による活動が6年目に入った。八重山の地域スタッフが中心となる八重山トータル支援ネット協働会議は本年度で5年が過ぎた。また、さらなる離島支援として公開講座を6月に八重山で「気になる子どもの理解・子育て・支援～子どもの育ちと学びを支えるトータル支援 in 八重山」と題する研修を、7月に宮古島で八重山と同様の「トータル支援 in 宮古島」と題する研修を開催した。宮古教育事務所との連携は2年目に入り、「出前トータル支援教室」、「協働会議（情報交換会）」、「出張発達・教育相談会」等の開催による第3次方式を実施した。

昨年度、国頭地域の子どもたちが金武町のネイチャー未来館で実施してきた1日キャンプの「トータル支援教室 IN 中北部」はその活動の拠点を大学に移して実施した。1日キャンプは5年目になり中頭教育事務所との共催は昨年度に引き続き2年目の開催となった。本年度は「トータル支援教室 IN 八重山」を6月と11月に行い、「トータル支援教室 IN 宮古・多良間」を7月と1月に行った。1月には昨年度の多良間市立多良間保育所、7月の多良間市立多良間幼稚園に続き、宮古教育事務所でもトータル支援 in 宮古を行った。本年度は八重山地域をひとつのモデルとして宮古地域の協働による支援体制の構築をめざしている。

沖縄特別支援教育研究会は12月に5回目の共催により開催された。センターの特別研究員の大成麻紀子教頭の所属する高等特別支援学校が大会事務局となったこともあり連携を強化することができた。本年度は平日に開催されたこともあり参加者が増加した。実践研究を報告された教諭たちとともに議論し学びあう有意義な機会となった。

センターにおいて5年間、取り組んできた「海プロジェクト（日本財団）」は最終年度を迎えた。八重山地域および国頭地域等の離島・へき地と交流を深めながら実施してきた「トータル支援教室」の地域開催は「海プロジェクト」の取り組みの発展により宮古地域へと拡大し宮古教育事務所、宮古福祉保健所、宮古島市教育委員会、多良間村教育委員会との協働開催を実現することができた

（第3方式協働支援）。先にも述べたが本年度は最終報告を兼ねた書籍を出版することとなりトータル支援における記念すべき最初の書籍となる。当センター事業の中心的な取り組みとなるトータル支援教室の支援企画と「自立活動」の指導案を作成することができた。また、当センターの書籍のみならず一昨年度および昨年度1月に東京大学で開催された第1回、第2回の海洋教育サミットにおいて発表した当センターの事業内容を特別研究員の武田喜乃恵および瀬底正栄がまとめ、東京大学が中心となり執筆された書籍に分担執筆した。

本年度で3年目になる沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業』への参画は最終年度となった。「気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築—「トータル支援教室」の学校支援の展開と「向かう力-受けとめる力」を育む教育実践—」、沖縄市教育委員会と浦添市教育委員会を交えた共催であり、センターの「実践事例研究会」への参加や研究指定校の比屋根小学校、安慶田小学校、コザ小学校等の校内研修会を実施した。9月には宮城県で開催された「特殊教育学会」で学校におけるトータル支援の実践について、今までの「トータル支援教室」の取り組みによる成果を報告した。さらにその成果を1月に行われた教育学部の事業報告会において報告した。

附属小学校においては今まで通り継続の巡回相談を実施し、附属小学校との連携によるインクルーシブ教育の一層の充実をめざした。本年も、今まで同様、月1回の校内委員会を校長、副校長、教頭とともに実施することができ、当センターとの連携による支援体制の整備が進んだ。

12月には浜田寿美男氏（奈良女子大学名誉教授）、麻生武氏（奈良女子大学名誉教授）、岡田美智男（豊橋技術科学大学教授）を招聘し当センターの第10回目の記念公開発達支援教育実践セミナーおよび「トータル支援教室」の事業による実践研究の成果報告を行った。八重山と宮古の大学サテライト会場へライブ配信し120名の参加者があり、関心の高さが伺われた。

当センターの地域貢献への取り組みは県内、県外に認知され、期待の高まりとともに、より一層の地域貢献への努力が求められている。

## 発達支援教育実践センターの参画プロジェクト

### 沖縄県委託事業

#### 『学力向上先進地域育成事業』プロジェクト

事業名：『気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築～『トータル支援教室』の学校支援の展開と『向かう力-受けとめる力』を育む教育実践～』

協働機関：沖縄市教育委員会（沖縄市立比屋根小学校他）

浦添市教育委員会（浦添市立内間小学校）

実施期間：平成25年4月～平成28年3月

#### 海を活かした教育に関する実践研究（日本財団）プロジェクト

事業名：『海を活かした発達障がい児の支援教育プログラムの開発と実践研究』

協働機関：八重山教育事務所、宮古島教育事務所、宮古福祉保健所、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間：平成23年4月～平成28年3月

#### 大学中期計画プロジェクト

事業名：『附属学校におけるインクルーシブ教育システム構築モデル事業と発達障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域との協働支援体制の整備』事業

協働機関：中頭教育事務所、八重山教育事務所、宮古島教育事務所、宮古福祉保健所、沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間：平成27年4月～平成28年3月

#### 公開講座

事業名：『気になる子どもの理解・子育て・支援—子どもの育ちと学びを支えるトータル支援—』

協働機関：石垣市、宮古島市、久米島町、竹富町、与那国町、八重山教育事務所、宮古教育事務所

実施期間：平成27年6月21日（石垣会場）、平成27年7月4日（宮古会場）

#### ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業：地域志向教育推進事業

事業名：『離島やへき地と近隣地域との協働による「トータル支援教室」における実践力養成』

協働機関：中頭教育事務所、八重山教育事務所、沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会

実施期間：平成27年4月～9月

#### 発達支援教育実践センターの地域連携プロジェクト

：関係機関および附属小・中学校への共同研究および連携支援

以下の関係機関への支援、および連携による共同研究、共同支援を行った。教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などそれぞれの関係機関の規模、形態、ニーズに合わせた連携を行った。

#### センター主催

##### ①活動名：トータル支援 IN 八重山

活動内容：保護者、教員への発達・教育相談、トータル支援教室の合同支援、協働会議、実践事例研究会による特別支援教育支援員実践力の養成支援

機関名：八重山教育事務所 石垣市教育委員会 竹富町教育委員会 与那国町教育委員会

##### ②活動名：トータル支援教室 IN 宮古・多良間

活動内容：保護者、教員への発達・教育相談、トータル支援教室の合同支援、協働会議による特別支援教育支援員実践力の養成支援

機関名：宮古教育事務所 宮古福祉保健所 宮古島市 宮古島市教育委員会 多良間村多良間村教育委員会

##### ③活動名：トータル支援教室 IN 中北部

活動内容：トータル支援出前教室（野外活動）

機関名：中頭教育事務所 沖縄市教育委員会 浦添市教育委員会（場所：琉球大学構内）

##### ④活動内容：定例の巡回相談、校内委員会

活動名：附属学校の巡回相談

学校名：附属小学校

センター共催

共催

①活動名：沖縄特別支援教育研究大会（高等特別支援学校）

内容：特別支援教育に関わる分科会

機関名：沖縄特別支援教育研究会

②活動名：特別支援学級の共同実践研究事業

内容：「トータル支援教室」との共同研究

機関名：沖縄県教育委員会（沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会）

③活動名：公開講座

内容：気になる子どもの理解・子育て・支援—子どもの育ちと学びを支えるトータル支援—

機関名：琉球大学生涯学習教育研究センター

大学拠点型事業（教育学部附属発達支援教育実践センター）

トータル地域支援事業

①トータル支援教室：月2回、年15回開催

支援スタッフ：センタースタッフ・特別研究員・現職教員・院生・学部生

支援対象：県内の発達障がい児支援・保護者子育て支援

（4回は八重山教育事務所および多良間村立保育所：特別研究員との合同研修）

②教育・発達相談支援・発達臨床支援

：事例：1061セッション

宜野湾市、浦添市、西原町、那覇市、中城村等から来室

対象：障害児、保護者、教員、保育士等

③実践事例研究会：月1回 年11回開催

対象：現職教員、支援員、保育士、関係職種等

④発達支援教育実践セミナー&実践研究会

（センター事業成果報告、基調講演、実践報告会）

後援：沖縄県、県教育委員会、発達障害者支援センター

場所：琉球大学法文新棟215

時：12月5日（土）～12月6日（日）

⑤研修会「目からウロコの教材・教具～笑顔・考える・つながる授業」

日時：5月16日（土）14時～16時30分

場所：琉球大学法文新棟215（石垣・宮古サテライト配信）

内容：子どもたちが“覚える”のではなく、“考える”活動を設定し、“教え込む”のではなく、“引き出す”指導について、特

別支援学級での長年の経験から実際の教材・教具を用いて講演。

講師：村上公也（キミヤーズ塾塾長、元小学校教諭）

参加者：216名（石垣・宮古含む）

国頭・中頭地域支援事業

①国頭・中頭トータル支援教室：年1回

共催：中頭教育事務所、沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会

場所：琉球大学構内 時：8月8日（土）

（発達障がいのある子どもたちへの野外活動体験）

②沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業』：沖縄市教育委員会、特別支援学級実践研究（共同研究事業）

公開校内研究会：沖縄市立比屋根小学校（指定研究校：事例研究会報告2回）

場所：比屋根小学校

校内研究会：沖縄市立安慶田小学校（事例研究会報告1回）

場所：安慶田小学校

校内研究会：沖縄市立コザ小学校（事例研究会報告1回）

場所：コザ小学校

③就学支援委員会

中城村教育委員会 就学支援委員会（学識経験者 浦崎武）

那覇・浦添地域支援事業

①沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業』：沖縄市教育委員会、特別支援学級実践研究（共同研究事業）

事業名：『気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築～『トータル支援教室』の学校支援の展開と『向かう力・受けとめる力』を育む教育実践～』

実施期間：平成25年4月～平成28年3月

場所：

②適正就学支援委員会

那覇市教育委員会 適正就学支援委員会（学識経験者 浦崎武）

実施期間：平成18年4月～平成28年3月

浦添市教育委員会 教育支援委員会（武田喜乃恵）

実施期間：平成26年4月～平成28年3月

③那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回  
那覇市教育委員会（学識経験者 浦崎武）

実施期間：平成26年4月～平成28年3月

### 島尻地域支援事業

#### ①島尻地区特別支援教育総合推進事業運営協議会

期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日

開催日：第1回 平成27年8月3日

第2回 平成28年1月27日

会場：島尻教育事務所

#### ②適正就学支援委員会

座間味村教育委員会 適正就学支援委員会（学識経験者 浦崎武）

### 宮古・多良間地域協働支援事業

#### ①宮古・多良間トータル支援教室：年2回（特別研究員合同研修）

共催：沖縄県子ども生活福祉部（宮古福祉保健所）、沖縄県教育委員会（宮古教育事務所）、宮古島市、多良間村、宮古島市教育委員会、多良間村教育委員会

場所：宮古教育事務所

時：第1回 7月2日（木）～4日（土）

第2回 1月22日（金）～23日（土）

参加支援者：現地教員・福祉施設職員・保健師・臨床心理士・センタースタッフ・本島特別研究員

支援：宮古地域の発達障がい児支援・保護者子育て支援

プログラム：

##### 1) トータル支援教室 I N 宮古・多良間

第1回 場所：多良間村立多良間幼稚園

時：7月3日（金）

第2回 場所：宮古教育事務所

時：1月23日（土）

##### 2) 宮古トータル支援ネット協働会議

第1回 時：7月2日（木）

第2回 時：1月22日（金）

参加者：宮古トータル支援ネット連携会議メンバー

##### 3) 教育・発達相談支援

第1回 時：7月2日（木）第2回

時：1月22日（金）

参加者：保護者、教員、支援員、福祉職員

##### 4) 研修会

主催：宮古福祉保健所 共催：発達支援教育実践センター 多良間村教育委員会

場所：多良間村コミュニティー施設

時：7月3日（金）

### 地域拠点型事業（八重山教育事務所）

発達支援教育実践センターは八重山をひとつのモデル地域として、今後、宮古地域や他地域へと事業を拡大させ、第1次計画から第4次計画へと発展させていきたい（図1）。

### 八重山地域協働支援事業 トータル支援ネット I N 八重山

#### ①八重山トータル支援教室：年8回（年2回は特別研究員合同研修）

共催：八重山教育事務所・石垣市教育委員会・

竹富町教育委員会・与那国町教育委員会

場所：八重山教育事務所

時：第1回 6月19日（金）～21日（日）、

第2回 11月2日（月）～3日（火）

参加支援者：八重山地域特別研究員・学生・

現職教員・関係職種職員・セン

タースタッフ・本島特別研究員

支援：八重山地域の発達障がい児支援・保護者子育て支援プログラム：

##### 1) トータル支援教室 I N 八重山

第1回 時：6月20日（金）

第2回 時：11月3日（火）

##### 2) 八重山トータル支援ネット協働会議

第1回 時：6月19日（木）

第2回 時：11月2日（月）

参加者：八重山トータル支援ネット連携会議メンバー

##### 3) 教育・発達相談支援

第1回 時：6月19日（木）

第2回 時：11月2日（月）

参加者：保護者、教員、支援員、福祉職員

##### 4) 実践事例研究会

第1回 時：11月3日（火）

参加者：保護者、教員、支援員、福祉職員

対象：現職教員、支援員、保育士、関係職種等

#### ②八重山拠点型発展事業

・八重山地域人材育成：特別支援教育の啓発高校生キャリア教育（支援者）としてトータル支援教室の活用

・通級指導教室（石垣市教育委員会）：集団支援の場としてトータル支援教室

地域支援プロジェクト計画

- 第1次計画：大学拠点型（参加型）連携支援体制の構築（近隣地域支援）  
（現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援）
- 第2次計画：出前型連携支援体制の構築（出前離島・へき地支援、実践力養成支援）

- 第3次計画：地域との協働による実践力養成システムの構築  
（離島・へき地との協働・連携による支援、実践力養成支援）
- 第4次計画：地域拠点型連携支援体制の構築（離島・へき地主導による実践力養成支援）

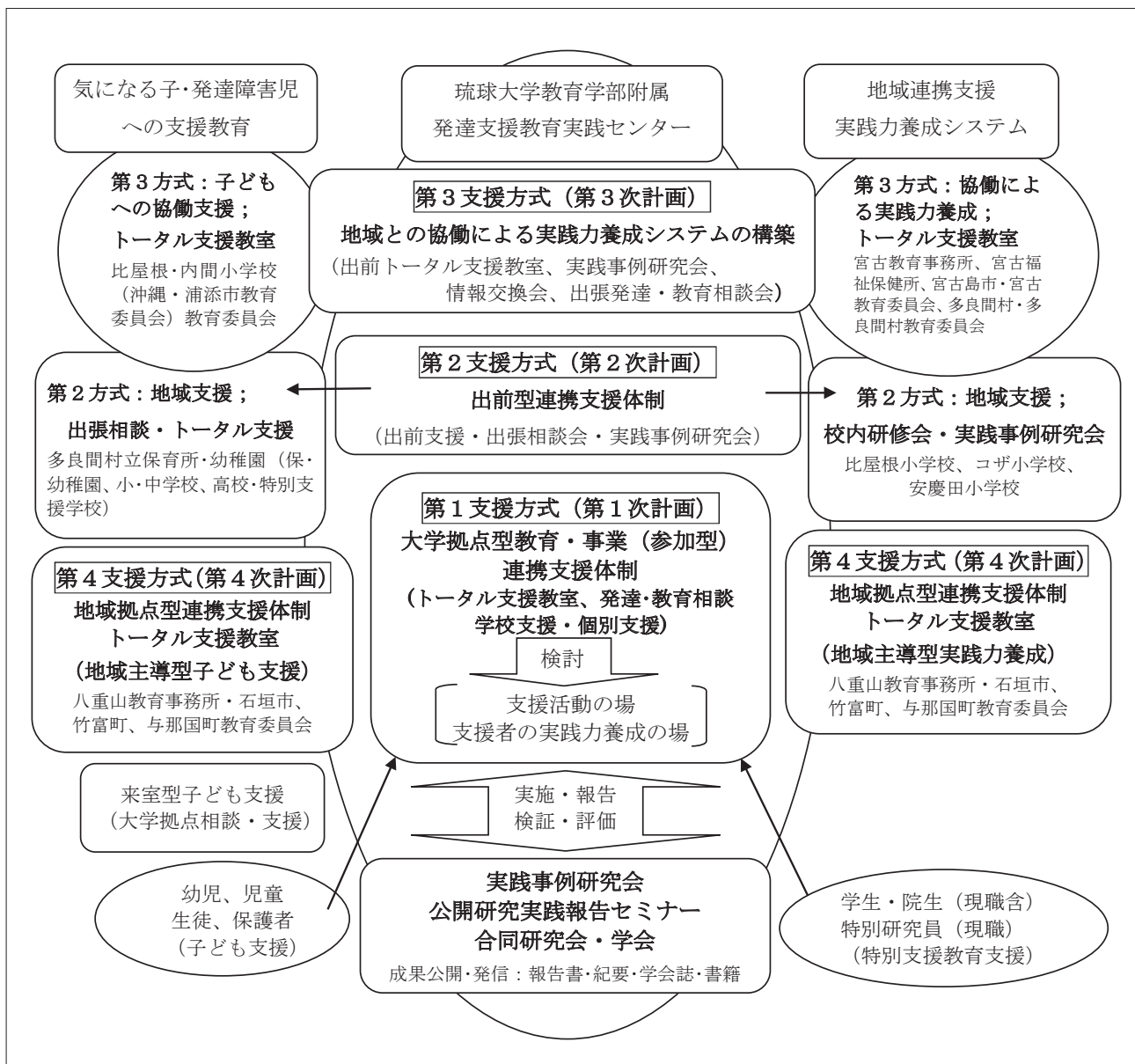


図1 地域支援プロジェクト計画

## 1. 実践教育・臨床支援活動

活動の中心である『トータル支援教室』では、大学教員、学部学生、院生、現職教員、心理士等が参加して発達障害のある子どもたちや気やかな子どもたちの参加による実践教育支援、及び実践研究を目的として定期的に集団支援、個別支援、連携支援を行っている。特に本年度は現職教員、学部学生、院生、特別研究員、特別支援教育支援員等の参加者により協働の多様な取り組みとなった。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員、臨床発達心理士等にとっては支援教育のための実践トレーニングの場であり活動となる。発達支援教育実践センターは発達支援および特別支援教育における地域貢献及び特別支援教育に貢献する人材育成を大切な課題として位置づけ、実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

### （1）個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援の4つ柱を中心としている。毎年度開催される発達支援セミナーにおけるアンケート結果から当センターに対する期待の大きさが見られる。発達障害や特別支援教育に関する認知は高まってきたが、具体的な支援や支援体制が機能するかどうかは今後の発達支援教育・特別支援教育の課題である。多忙のなか幼児・児童・生徒への対応は、緊急の対応を求める頻度も高まっている。学校現場は早急に対応可能な専門性の高い信頼できる相談機関を求めている。本センターは一昨年度からプレイルームの壁やドアをリフォームし、引き戸を設置する等のバリアフリー、窓への柵の設置等の安全面、気兼ねなく活動できるようにする防音性、プレイルームの鏡、保護者向けのお知らせの掲示板を設置する等、環境や施設の機能性を高めることにより支援を充実させ、さらなる一層の地域貢献を目指している。

### （2）集団実践教育・臨床活動

来所された子どもたちのなかで集団適応を困難とする子どもたちには『トータル支援教室』に参加してもらった。スタートして9年が過ぎた。この活動は子どもたちを支援するとともに当センターと小・中学校が連携することにより発達支援・特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動である。本年度も長く参加してきた子どもが高校生となり支援教室を卒業した。

当センターで『トータル支援教室』を位置づけ

ている『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』のセンター提供の講義・演習の受講者が増え、今では特別支援教育を専門に学ぶ学生以外の数学、美術等の教科教育を含めた領域の教員志望の受講生が増えた、教育学部全体に発達障害、特別支援教育の認知が広がっているように実感した。前期の『発達支援教育実践A』において「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業に参画しより一層、授業を充実させ地域志向教育推進を図ることができた。

また、このトータル支援教室は、学生、院生、現職教員にとっては発達支援・特別支援教育のための実践力の養成をすることが可能となる活動である。当センターはこの教室に参加することにより多様な子どもたちと関わる視点を学んでもらい、その成果を、現場の発達支援・特別支援教育へ還元することを目的としている。この教室での実践研究の成果はセンター主催の発達支援教育実践セミナーにおいて、12月に報告した。

### （3）実践教育・臨床支援ケースの概要

平成27年1月から平成27年12月までの1年間の月別セッション数を表1に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計1061セッションになった。昨年は901セッションであったので160セッション増加した。トータル支援プログラムの個別支援セッションが昨年9セッションから30セッションへと増加した。トータル支援プログラムの個別セッションは大学院の実践演習を兼ねていることもあり上半期は大学院生の参加が多かったことが影響している。

また子どもへの発達・教育・心理支援のセッション数は105セッションであり、昨年の36セッションより増加した。昨年度支援を行った事例数は106件であったが、今年は146件で40件増加した。今年度は学校での集団支援を共同で行ったこともあり、セッション数が増加した。

一方、親面接は昨年度144セッションであり本年は114セッションとなり相談数は減少した。昨年の子どもの行動観察は186件であり、本年度は176件に減少した。そしてその行動アセスメントにそって保護者、教員、保育士とともに考える形態の相談も行った。

宜野湾市保育課の地域の保育園の巡回や那覇市教育委員会の専門家チームによる学校からの依頼、本センターの相談員による浦添市教育委員会の「就学指導委員会」による依頼等を受けて支援を行った。『トータル支援 I N 八重山』、『トータ



ル支援 I N多良間・宮古』等の離島・へき地の支援ニーズがあり相談も行った。特に宮古地域の事

業が発展したことで宮古島市の相談件数が増加した。

表1 臨床活動 セッション数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
親面接（カウンセリング含む）	16	11	21	18	18	36	23	21	17	12	30	15	238
教員面接（スーパーヴィジョン含む）	19	20	19	21	23	26	38	22	22	23	27	23	283
子どもの行動観察（アセスメント）	11	14	11	12	18	32	22	15	17	27	48	73	300
子どもへの発達・教育・心理支援（心理療法含む）	2	4	4	6	3	11	2	1	20	18	17	17	105
実践トータル支援プログラム（個別支援）	3	0	0	3	7	5	4	0	0	3	3	2	30
実践トータル支援プログラム（集団適応支援）	10	0	0	10	11	26	8	7	0	9	13	11	105
総 計	61	49	55	70	80	136	97	66	76	92	138	141	1061

(4) 実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳

表2には診断別内訳を示した。相談対象のなかで多い障害は昨年度と同様にアスペルガー障害（自閉症スペクトラム障害：高機能）であり約

32%を占め、広汎性発達障害（自閉症スペクトラム障害）を含めると55%となり全体の約半数を占めた。

表2 臨床活動 診断別内訳

診 断 名	事例数
自閉症スペクトラム症(高機能自閉症)	46
自閉症スペクトラム症(自閉症)	35
精神遅滞(知的障害)	19
注意欠如多動性障害(ADHD)	13
学習障害(LD)	4
情緒障害(虐待、緘黙、不登校含む)	14
聴覚障害	0
言語障害	0
ダウン症候群	2
境界知能	8
身体障害	3
その他	2
総 計	146

(5) 実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内訳  
相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。昨年と同様に宜野湾市、浦添市、西原町など

の大学周辺の市町村からの相談（約63%）を多く受けた。また本年も、離島地域での相談（約23%）も受けた。

表3 相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事例数
宜野湾市	38
那覇市	3
浦添市	32
西原町	18
うるま市	1
中城村	1
読谷村	1
沖縄市	16
宮古島市	8
南風原町	1
石垣市	24
竹富町	1
与那原	1
本部町	1
総 計	146

(6) 附属小学校支援

琉球大学で月1回の巡回相談及び授業観察、および月1回の附属小学校における校内委員会を行っている。本年度は以下の日に行った。相談件数は以下の表4に示す。

・琉大附属小巡回相談及び授業観察

実施日：1月27日、2月12日、3月11日、  
5月26日、6月30日、7月17日、  
9月29日、10月27日、11月24日、  
12月8日

場所：琉大附属小学校

・琉大附属小校内ケース会議

実施日：1月29日、3月12日、6月24日、  
7月22日、9月2日、10月14日、  
11月25日、12月16日

場所：琉大附属小学校

人が相談対象となり担任、コーディネーター、  
養護教諭、校長、副校長、教頭と情報交換および  
支援について話し合った。合計年間延べ 人(重  
複含む) 教員面接、行動観察をおこなった。

表4 相談 人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
教員面接（スーパーバイジョン含む）	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	5
子どもの行動観察（アセスメント）	4	2	3	0	6	4	1	0	7	7	10	12	56
総 計	4	3	3	0	7	5	2	0	7	7	11	12	61

## 2. 社会教育活動

平成18年10月より支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつトータル支援教室がスタートした。専門機関としての大学の発達支援教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援することがこの活動のねらいである。

### (1) トータル支援教室

保護者や学校から発達障害児における支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、トータル支援活動を行っている。以下のような目的で活動している。

- ①支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
  - ②支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員、関係領域・機関の専門家等への実践教育支援
  - ③学校・教育行政との連携支援
  - ④支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法等、実践に役立つ支援に関する研究
- 支援活動は、学生、大学院生、保育士、小学校、

中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者同士の情報交換を行っている。以下のような支援課題と目的で活動をしている。

#### 1) 個別支援活動

個別支援においては関係性に基づいた「生きる力」を育むために子どもたちの物事へとく向かう力>を育むことを目的としている。

#### 2) 集団支援活動

集団支援においては情緒の豊かさとメンタルケアに基づいた「生きる力」を支え活かすことを目的としている。

#### 3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力」を大切に育て支援を目的としている。

水曜日、月2回のペースで琉球大学教育学部発達支援教育実践センターを会場として以下のような支援活動を行った。ここでは2015年1月から12月までの第133回から第147回までの活動を示す。また、その活動の内容を表5に、支援活動参加者数を表6に示す。

表5 集団支援活動の内容

回	活動日	活動内容
134	2015年 1月14日	みんなでわっしょい！ お正月遊び！
135	2015年 1月28日	節分をおもいきり楽しもう！～恵方巻き作りと豆ツクアウト～
136	2015年 4月2日	自己紹介動画作り
137	2015年4月22日	水風船アート
138	2015年5月13日	リアル脱出ゲーム！
139	2015年5月27日	梅雨に負けない！てるてる坊主作り！！
140	2015年6月10日	スライム作り！
141	2015年6月24日	真夏にひんやり＊氷でおえかき！
142	2015年7月8日	空き缶を使って遊ぼう！～わたしと あなたと 空き缶と～
143	2015年7月25日	真夏のオアシス ～水の心地よさを感じよう～
144	2015年10月14日	仲良くなり大会！？
145	2015年10月28日	ハロウィンナイト★仮装して楽しもう
146	2015年11月11日	秋の大運動会☆！
147	2016年12月9日	冬が始まるよ！全員集合！

表6 支援活動参加者数

回	活動日	子ども	親	学部学生 特別専攻科	他学生	院 生	特別支援 教育支援員	教員 (特別研究員)	近接領域の 専門家	センター スタッフ	合 計
134	2015年 1月14日	4	4	17	0	2	0	0	0	2	29
135	2015年 1月28日	6	6	17	0	2	0	0	0	2	33
136	2015年 4月2日	4	4	1	0	1	0	0	0	2	12
137	2015年 4月22日	6	7	18	0	2	0	0	0	2	35
138	2015年 5月13日	6	7	19	0	2	0	0	0	2	36
139	2015年 5月27日	5	6	19	0	2	0	0	0	2	34
140	2015年 6月10日	5	5	12	0	2	0	2	0	2	28
141	2015年 6月24日	6	8	15	0	2	0	0	0	2	33
142	2015年 7月 8日	6	7	21	0	2	0	0	0	2	38
143	2015年 8月8日	7	7	19	0	1	0	5	2	2	43
144	2015年 10月14日	5	5	9	0	1	0	0	0	2	22
145	2015年 10月28日	4	4	9	0	1	0	0	1	2	21
146	2015年 11月11日	4	4	12	0	1	0	0	1	2	24
147	2015年 12月9日	5	5	11	0	1	0	0	0	2	24
総計		73	79	199	0	22	0	7	4	28	412

## (2) 公開セミナー（実践トータル支援プログラムの研究成果報告）

### 1) 公開セミナー

地域社会への貢献を目的にした公開セミナー（センター活動の実践研究成果の報告）を『発達障がいのある子どもたちと「ともに楽しむ」集団支援と教育実践から考える—他者との関係性を基盤とした「向かう力」を育む「トータル支援」—』というテーマのもと、琉球大学法文新棟2階大講義室において12月5日（土）に開催した。本年度は10回目の記念大会であり2回目のセミナーにお招きした浜田寿美男氏（奈良女子大学 名誉教授）、麻生武氏（奈良女子大学 名誉教授）を再度、講師として招聘した。また、浜田氏と岡田美智男氏（豊橋技術科学大学 教授）の基調講演および研究成果の報告に対するコメントを頂いた。昨年度が他者との関係性による「受けとめる力」をテーマにしたことに対して、本年度はトータル支援教室で大切にしてきた「ともに楽しむ」集団支援と教育実践に焦点を当てた取り組みの報告を行った。今回は初めて八重山地域、宮古地域へ大学からライブ映像を配信することができた。お招きすることができなかった離島地域の特別研究員に生でセミナーの様子を見て戴くことができた。サテライト会場を含め教員、保育士、学生、発達支援に携わる専門家、支援員、保護者など様々

な領域の方々約150名のご参加を戴き実りのあるセミナーとなった。

実践研究報告は当センターで行っているトータル支援教室の取り組みが10年目に入ったので、今までの集団支援の振り返りを中心に発表を行った。さらにトータル支援教室の実践を学校における教育実践として取り組んでいる沖縄市立比屋根小学校の報告も行った。また、八重山地域でのトータル支援活動についての成果報告も行った。学校および教育関係機関を含めた各領域の専門機関からの参加者に実践から学ぶ教育の機会を提供することができた。また、アンケートを通して地域のニーズの収集や活動への関心の度合いを確認することができた。

前回のセミナーに引き続き、教員、保育士、保護者、教育、福祉、医療領域から多くの発達支援、特別支援教育に熱心な関係者の参加を得ることができ、センターの取り組みへの関心の高さを感じた。また、今後のセンターを拠点としたネットワーク作りの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。

公開発達支援教育実践セミナー『発達障がいのある子どもたちと「ともに楽しむ」集団支援と教育実践から考える—他者との関係性を基盤とした「向かう力」を育む「トータル支援」—』

日時：12月5日 土曜日 10時～17時  
会場：琉球大学法文学部 法文新棟 215 教室  
後援：沖縄県 沖縄県教育委員会  
沖縄県発達障害者支援センター

参加者：約 150 人

司会：浦崎武：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター専任

講師：浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授）  
麻生武（奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授・奈良女子大学名誉教授）  
岡田美智男（豊橋技術科学大学 情報・知能工学系教授）

プログラム：

第1部：「ともに楽しむ」トータル支援と教育実践の取り組み

・10時10分～11時20分

『トータル支援からはじまる授業実践—個別支援、集団支援からの気づきと現場での活かし方—』

瀬底正栄（浦添市教育委員会指導主事・センター特別研究員）

・『八重山地域のトータル支援—Aさんと支援者の変容をふりかえって—』

本間七瀬（石垣市立新川小学校教諭・センター特別研究員）

次呂久真司（石垣市立石垣第二中学校教諭）

コメント 麻生武（奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授・奈良女子大学名誉教授）

浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授）

・11時30分～12時30分

講演：『「弱いロボット」たちと考える子どもたちの発達と学び』

岡田美智男（豊橋技術科学大学 情報・知能工学系教授）

第2部：トータル支援教室で考えてきた集団支援と教育実践を考える

・13時30分～15時50分

・『トータル支援教室で学んだこと～9年間をふりかえって～』

武田喜乃恵（発達支援教育実践センター相談員）

・『子どもと教師の向かう力と受け止める力が生まれる教育実践—支援学級と通級指導教室の連携から』

末吉麻紀（沖縄市立比屋根小学校教諭）

・『学校のチャンスを活かした共に学び育つ集団作り～管理職の経験から』

崎濱朋子（読谷村立古堅小学校校長・センター特別研究員）

(3) 離島・へき地協働活動及び参画事業

第1回は外部相談員として山上雅子氏（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）の協力を得て、専任教員浦崎武、事例提供者として大学院生の武田喜乃恵の3人で参加した。そして第2回は平成21年3月5日、6日にセンター長奥田実、専任浦崎武、特別研究員の瀬底正栄、崎濱朋子、武田喜乃恵および現職教員の金城明美、6人で教育学部共同研究経費によりスタッフの人数を増やして出前トータル支援教室を開催した。第4回八重山出前支援は学部プロジェクトとして21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第1回、東村出前支援に関しては財団法人宇流麻財団の助成を得て行った。第5回、第6回八重山出前支援は第4回同様、学部プロジェクトとして21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第5回の記事は平成22年3月8日八重山毎日新聞に、同年3月18日に琉球新報に、第6回の記事は平成22年9月4日、5日に地元紙八重山毎日新聞、同年9月12日に琉球新報に掲載された。第2回東村教育委員会の連携により東村立東小学校で出前支援を10月に行う予定であったが台風の影響を受けて中止となった。第7回～9回の八重山出前支援は平成23年3月4日～5日、同年6月17日～19日、同年10月14日～16日に行った（海を活かした教育に関する実践研究・21世紀おきなわ子ども教育フォーラム）。八重山地域の教諭、支援員による現地スタッフが参加し、支援活動を行った。平成26年には日本財団による「海を活かした教育に関する実践」を八重山地域と宮古地域において行った。本年度は宮古地域において宮古教育事務所、宮古福祉保健所、宮古島市教育委員会、多良間村教育委員会、多良間村、県教育委員会と共催することができた。

これまで八重山において地域主導で行ってきたトータル支援教室の活動内容を表7に示す。

表7 八重山集団支援活動の内容

回	活動日	活動内容
1	2011年11月18日	・ふわふわワールド ～風船であそぼう～
2	2012年2月17日	・によろぴょんワールド ～なわやひもであそぼう～
3	2012年5月18日	・ダダダダーンワールド ～段ボール箱であそぼう～
4	2012年8月24日	・ひらひらワールド ～大きな布であそぼう～
5	2012年10月19日	・どすこいワールドであそぼう
6	2012年12月15日	・クリスマスワールドであそぼう
7	2013年5月17日	・空港ワールド
8	2013年10月18日	・ハロウィンワールド
9	2013年12月14日	・クリスマスワールド ～雪であそぼう～
10	2014年5月16日	・こねこねワールド ～ねんどであそぼう～
11	2014年9月26日	・海のおまつりワールド ～海人になってみよう～
12	2014年10月19日	・「ハロウィンワールド ～仮装して町へいこう！
13	2014年12月19日	・クリスマスワールド ～みんなで遊ぼう～
14	2015年7月31日	・おにごっこワールド～みんなで遊ぼう～
15	2015年12月8日	・クリスマスワールド～みんなで遊ぼう～

## 1) 八重山地域に関わる協働活動

## ①センター主催：公開実践研修会

日時：5月16日（土）

会場：琉球大学法文新棟 215 教室：石垣市立  
図書館（サテライト配信）

内容：村上公也先生による村上実践講座

参加者：約30人（石垣サテライトのみ）

②第15回八重山出前支援平成27年6月（八重山教育事務所との連携）：支援プログラム参加者  
総数80人

## A. 個別相談会

日時：6月19日（金）10時～17時

会場：八重山教育事務所

担当：浦崎武（琉球大学教育学部教授）、武田  
喜乃恵（臨床発達心理士）一組の相談時間は50分、計8組（9人）の相  
談を行った。

## B. 協働会議

日時：6月19日（金）18時～19時

会場：八重山教育事務所

連携関係部局「トータル支援ネットIN八重山」  
のメンバーで、八重山の発達支援や特別支援  
教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を  
行った。

参加者：13名

## C. 集団支援教室

日時：6月20日（土）13時30分～15時30分

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「水風船アート～海の世界を表  
現しよう～」参加者：42名（子ども13人（内兄弟1人）、  
親12人、本島支援スタッフ4人、八重山支  
援スタッフ3人、学生8名、保育士1人、そ  
の他1名）

D. 公開講座

日時：6月21日（日）10時～12時30分

会場：石垣市立図書館

内容：「気になる子どもの理解・子育て・支援  
～子どもの育ちと学びを支えるトータル支援～ in 八重山」

参加者：16人

③第14回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室

日時：7月31日

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「おにごっこワールド～みんなで遊ぼう～」

事前準備、集団支援、事後ミーティング

参加者：参加者総数17人—子ども：5人（内兄弟1人）、保護者4人、支援者スタッフ6人（小学校教諭3人、中学校教諭1人、指導主事1人、その他1人）、大学スタッフ2人で集団支援活動を行った。

④巡回相談（石垣市立保育所）

日時：10月8日（木）13時～17時

会場：石垣市内4保育所

相談者：5人

⑤第16回八重山協働支援平成27年11月（八重山教育事務所との協働）：支援プログラム参加者総数80人

A. 個別相談会

日時：11月2日（月）10時～16時30分

会場：八重山教育事務所

担当：浦崎武（琉球大学教育学部教授）、武田喜乃恵（臨床発達心理士）

一組の相談時間は50分、計8組（9人）の相談を行った。

B. 協働会議

日時：11月2日（金）18時～19時30分

会場：八重山教育事務所

連関関係部局“トータル支援ネットIN八重山”のメンバーで、八重山の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者：7名

C. 集団支援教室

日時：11月3日（火）11時～13時

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「おおなみ、こなみワールド～布の波であそぼう！～」

参加者：27名（子ども9人（内兄弟1人）、親8人、本島支援スタッフ4人、八

重山支援スタッフ2人、学生1名、見学者3名）

D. 実践事例検討会

日時：11月3日（火）15時～17時

会場：八重山教育事務所

内容：教育実践、集団支援の実践に関する研修会を行った。

参加者：7人

⑥八重山実践報告（発達支援教育実践セミナー）

日時：12月5日（土）10時～17時

場所：琉球大学法文新棟215教室：石垣市立図書館（サテライト配信）

・公開発達支援教育実践セミナーにおいて『八重山地域のトータル支援—Aさんと支援者の変容をふりかえって』について報告を行った。

⑦第15回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室

日時：12月8日（火）17時半～20時半

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「クリスマスワールド～みんなで遊ぼう～」

事前準備、トータル支援教室、事後ミーティング

参加者：参加者総数21人—子ども：6人（内兄弟2人）、保護者5人、支援者スタッフ8人（小学校教諭5人、中学校教諭1人、指導主事1人、その他1人）、大学スタッフ2人で集団支援活動を行った。

⑧第16回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室

日時：2月25日（金）17時半～20時半

会場：八重山教育事務所

企画タイトル：「パフェワールド～みんなで遊ぶ～」

事前準備、集団支援、事後ミーティング

参加者：参加者総数24人—子ども：8人（内兄弟3人）、保護者7人、支援者スタッフ7人

（小学校教諭4人、中学校教諭1人、指導主事1人、その他1人）、大学スタッフ2人で集団支援活動を行った。

2) 中北部地区に関わる支援活動

トータル支援教室の野外活動体験（国頭教育事務所、中頭教育事務所との連携）

日時：8月8日（土）

場所：琉球大学構内

プログラム：風船、そうめん流し

参加者：児童生徒7名 保護者7名 団長及

び支援スタッフ5名 学生14名 特別研究員4名 大学スタッフ2名 計39名

### 3) 宮古地区に関わる協働活動

3年前に当センターおよび宮古福祉保健所の主催による研修会を多良間村で2日間、開催した。宮古島と石垣島の間にある多良間島は地理的要因もあり、専門家が存在せず、発達障害のある子どもたちへの支援が行き届かない状況が続いていた。そのような状況を危惧していた宮古福祉保健所の呼びかけにより研修会が実現した。昨年度は引き続き、発達障害児への支援および教育を行っている教員を中心とした教育・福祉・医療関係者向けの研修会を宮古保健所が主催となり、当センターが共催となって開催した。また、その翌日は当センターが主催となり、宮古福祉保健所が共催となって多良間村立多良間保育所で、初の「トータル支援教室 IN 多良間」を開催することができた。本年度は今までと同様、宮古福祉保健所が主催で発達障害研修を、大学主催による多良間村立多良間幼稚園でトータル支援教室を開催した。

#### ①センター主催：公開実践研究会

日時：5月16日（土）

会場：琉球大学法文新棟215教室：宮古中央公民館（サテライト配信）

内容：村上公也先生による村上実践講座

参加者：62人（宮古サテライトのみ）

#### ②第2回宮古協働支援平成27年7月（宮古教育事務所と宮古福祉保健所との協働）：支援プログラム参加者総数136人

##### A. 個別相談会

日時：7月2日（木）10時30分～15時

会場：宮古教育事務所

担当：浦崎武（琉球大学教育学部教授）、武田喜乃恵（臨床発達心理士）

一組の相談時間は50分、計8組（8人）の相談を行った。

##### B. 協働会議

日時：7月2日（木）16時～17時30分

会場：宮古教育事務所

連挽関係部局“トータル支援ネット IN 宮古”のメンバーで、宮古の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者：19名

##### C. 集団支援教室

日時：7月3日（金）10時30分～12時

会場：多良間村立多良間幼稚園

企画タイトル：「みんなで海の世界を作って遊ぼう！」

参加者：42名（子ども26名、保育士2人、本島支援スタッフ5人、学生2名、保育士2人、宮古福祉保健所職員5名）

#### D. 発達障害児（者）支援者研修会

主催：宮古福祉保健所 共催：発達支援教育実践センター

日時：7月3日（金）16時30分～18時

会場：多良間村コミュニティ施設

内容：「子どもの育ちと学びを支える～向かう力を引き出す保育・教育・子育て～」

講師：浦崎武（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター教授）、武田喜乃恵（琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター相談員）、崎濱朋子（読谷村立古堅小学校校長）、大城麻紀子（沖縄県立高等特別支援学校教頭）

対象：教員、保育士、保護者、役場職員等

参加者：30名

#### E. 公開講座

日時：7月4日（土）14時～16時30分

会場：宮古中央公民館、久米島サテライトキャンパス及び琉球大学サテライト配信

内容：「気になる子どもの理解・子育て・支援～子どもの育ちと学びを支えるトータル支援～ in 宮古島」

参加者：37人

#### ③トータル支援教室の開催への事業説明及び事前調整

日時：1月8日（金）17時30分～19時

場所：宮古福祉保健所

#### ④第3回宮古出前支援平成28年1月（宮古教育事務所と都福祉保健所との連携）：支援プログラム参加者総数136人

##### A. 個別相談会

日時：1月22日（木）10時30分～15時30分

会場：宮古教育事務所

担当：浦崎武（琉球大学教育学部教授）、武田喜乃恵（臨床発達心理士）

一組の相談時間は50分、計8組（8人）の相談を行った。

##### B. 協働会議

日時：1月22日（金）17時～18時30分

会場：宮古教育事務所

連挽関係部局“トータル支援ネット IN 宮古”のメンバーで、宮古の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者：19名



### C. 集団支援教室

日時：1月23日（土）10時30分～12時30分  
 会場：宮古教育事務所  
 企画タイトル：「紙ひこうきであそぼう！」  
 参加者：32名（子ども9名、本島支援スタッフ4人、宮古支援スタッフ8名、見学者2名、保護者9名）

### D. 支援者実践研修会

日時：1月23日（土）13時30分～15時  
 会場：宮古教育事務所  
 内容：①実践のオリエンテーション②支援教室後の支援スタッフのふりかえり  
 対象：「C. 集団支援教室」の支援スタッフおよび見学された教員、支援員等  
 参加者：14名

## 4) 沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業』プロジェクト

### 沖縄市立比屋根小学校・浦添市立内間小学校との共同研究

比屋根小学校との共同研究は3年目となる最終年度となった。比屋根小学校のほか、内間小学校においても実践活動を行った。前年度3月には沖縄市教育委員会で今後の取り組みについての打ち合わせを行った。そして4月には浦添市教育委員会主催の発達障害者において比屋根小学校とセンターにおけるトータル支援教室における集団支援と教育実践についての報告を行った。5月には発達支援教育実践センターでセンターにおいて外部講師を招いての研修会を開催した。また5月下旬には安慶田小学校、7月にはコザ小学校において校内研修会が開催されるなど、沖縄市の学校で熱心な取り組みが生まれてきた。沖縄市内の学校や県内の支援の必要な子どもたちの支援者・教育者、養育者との実践力養成に向けた取り組みの成果を確認することができた。

比屋根小学校をモデルに本年度から研究指定学校となる浦添市立内間小学校で5月末に打ち合わせを行い、実践がスタートした。大学から学生を派遣して取り組みを行った。最初は担任や支援員には戸惑いや不安も見られたが、1月末において少しずつ取り組みが軌道に乗り、子どもたちが取り組みの時間を楽しみに待つようになったことを確認することができた。

9月には東北大学で開催された「特殊教育学会」で3年間の取り組みを報告し、実践の成果の検証を行った。そして12月には、比屋根小学校

の研究教員、発達支援教育実践センター特別研究員、当センターおよび八重山の特別研究員との協働による「実践研究報告会」や「公開セミナー&実践研究報告会」を琉球大学で開催した。1月は大学において本年度の事業の成果を報告した。

本研究班の指定研究校の比屋根小学校では中心となっていた教頭が本年度、異動になったが、今までの取り組みのキーパーソンの教頭が抜けても取り組みは継続された。一昨年度から始まった合同授業が最終年度も継続されたことで、知的障害特別支援学級、自閉症・情緒障害特別支援学級、LD等通級指導教室の子どもたちを集めた授業を合同で開催する形態の授業が根付くことができた。

3年間の取り組みにおいて支援を必要とする子どもたちの「向かう力」に力強さが生まれ、思考力、判断力、表現力の育ちが見られるようになり、言語活動においても積極的に姿勢が見られるようになったという報告を聞くことができた。育ちと学び報告書より抜粋

#### ①浦添市発達がい研修会

日時：4月3日（金）15時～16時45分  
 会場：浦添市中央公民館  
 内容：「学級経営に活かせる発達障がい幼児児童生徒との関わり方」  
 講師：浦崎武、武田喜乃恵（琉球大学）、末吉麻紀、内間貴秋（比屋根小学校）  
 参加者：200名

#### ②事例検討会

日時：4月30日（木）15時45分～17時  
 6月11日（木）16時～17時  
 会場：比屋根小学校  
 内容：特別支援学級及び通級指導教室在籍の児童の事例検討  
 参加者：14名（延べ）

#### ③研修会「目からウロコの教材・教具～笑顔・考える・つながる授業」

日時：5月16日（土）14時～16時30分  
 場所：琉球大学法文新棟215（石垣・宮古サテライト配信）  
 内容：子どもたちが“覚える”のではなく、“考える”活動を設定し、“教え込む”のではなく、“引き出す”指導について、特別支援学級での長年の経験から実際の教材・教具を用いて講演。  
 講師：村上公也（キミヤーズ塾塾長、元小学校教諭）  
 参加者：216名（石垣・宮古含む）

④沖縄市立安慶田小学校校内研修会

日時：5月26日（火）15時30分～16時45分

会場：安慶田小学校

内容：気になる児童の事例検討、通常学級に在籍する発達障害の子ども達の対応について

参加者：20名（全教員）

⑤打ち合わせ（浦添市教育委員会）

日時：5月28日（木）会場：内間小学校

内容：事業説明

参加者：6人（校長、教頭、浦添市教育委員会指導主事、通級指導教室、大学スタッフ2人）

⑥沖縄市立コザ小学校校内研修

日時：7月29日（水）9時30分～11時30分

会場：コザ小学校

内容：教育活動全体における特別支援、発達に困り感を有した児童への配慮・対応の仕方

参加者：20名（全教員）

⑦比屋根小学校公開校内研修会

日時：7月29日（水）会場：比屋根小学校、

内容：比屋根小学校の特別支援学級及び通級指導教室での授業研究の報告会を実施。

参加者：30名

⑧トータル支援教室 特別企画 in 琉大～夏の野外活動～

日時：8月8日（土）会場：琉球大学構内

共催：中頭教育事務所、沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会、読谷村教育委員会

内容：中北部地区の特別支援学級等に通う子どもたちと発達支援教育実践センターの「トータル支援教室」に通う子どもたちの1日キャンプを実施。

参加者：

⑨特殊教育学会 自主シンポジウム

日時：9月19日（土）会場：東北大学

内容：『発達障がいのある子どもたちの＜向かう力＞を育む＜トータル支援＞～＜ともに楽しむ＞集団支援と教育実践から育まれる力』と題して自主シンポジウムを企画し、話題提供した。指定討論者の別府哲氏（岐阜大学）から取り組みについて助言を頂いた。

参加者：30名

⑩小学校へ学生支援員の派遣

期間：11月～3月

場所：浦添市立内間小学校、沖縄市立比屋根小学校

内容：『支援学級及び通級指導教室での集団活動における児童支援による実践力養成』

⑪公開セミナー（実践研究報告会）

日時：12月5日（土）

会場：法文新棟215教室

内容：「向かう力」と「受けとめる力」が生まれる支援の工夫～特別支援学級と通級指導教室の連携による取り組み～と題して、比屋根小学校の実践研究を報告。

指導助言：浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授）、麻生武（奈良女子大学名誉教授）、岡田美智男（豊橋技術科学大学教授）

参加者：150名

⑫最終報告会

日時：1月9日（土）13時～18時

会場：浦添市てだこホール 市民交流室

内容：パネル展示による今年度の取り組みの最終報告

5）海を活かした教育に関する実践研究（日本財団）プロジェクト

トータル支援プログラムにより地域協働活動を展開してきた。特に「トータル支援教室」においては子どもたちへの支援教育の媒介となる支援企画の開発を行ってきた。5年の取り組みは本年度で終了することになった。沖縄の地理的特色を生かした支援企画を、日本財団のプロジェクトに参画し、『海を活かした発達障害児の支援教育プログラムの開発』と題してトータル支援教室（大学及び八重山教育事務所）や学校現場で実践的な研究を行ってきた（表8、9）。

本年度は、7月3日、1月22日に宮古地区の多良間村の多良間保育所で実施した「トータル支援教室」で海企画を実践した。多良間村では昨年度の多良間保育所に続き、多良間幼稚園で4歳児から6歳児までの幼児を対象に海企画を開催することができた。また、東京大学主催により一昨年、昨年に開催された全国海洋教育サミットで報告した内容について執筆依頼があり、センター相談員の武田喜乃恵と特別研究員、浦添市教育委員会指導主事の瀬底正栄が引き受け、『海洋教育のカリキュラム開発—研究と実践—』東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター編（日本教育新聞社）としてまとめた。

また、センター専任浦崎武、センター相談員

の武田喜乃恵、崎濱朋子（特別研究員、読谷村立古堅小学校校長）、大城麻紀子（特別研究員、沖縄県立高等特別支援学校教頭）、瀬底正栄（特別研究員、浦添市教育委員会指導主事）の5名で、5年間の海プロジェクトの取り組みを『発達障害のある子どもとともに楽しむ＜トータル支援＞と海を活かした教育実践－自立活動の授業実践と集団支援を通して＜向かう力＞を育む－』として出版した。センターのトータル支援の取り組みや沖縄市立比屋根小学校の海プロジェクトの取り組み等、「海」をテーマに多様な支援教育プログラム

をまとめた。海を活かした発達障害児の支援教育プログラム開発と学校現場での実践を通して、海以外のトータル支援のプログラムの支援成果も向上した。今後、5年間の成果報告を兼ねた書籍を地域に配布し活用してもらうことにより、地域に取り組みの成果を発信していきたい。

#### 6) 大学中期計画プロジェクト

図1の地域支援プロジェクト計画に基づいて当センターは第1次計画から第4次計画の地域支援活動を行った。附属小学校の支援を月1回

表8 トータル支援教室で行った『海』の支援プログラム

年	月	企画名	場所	形態
2011	3	みんなで海をつくろう 海であそぼう	八重山教育事務所	見立ての活動
2011	6	ペタペタコロコロうみのせかい	八重山教育事務所	見立ての活動
2011	8	日帰りキャンプ(どろんこクルージング)	金武町のキャンプ場	野外活動
2011	10	へんしん! しんぶんし!	八重山教育事務所	見立ての活動
2012	6	海の世界ヘレッツゴー! 海であそぼう!	八重山教育事務所	見立ての活動
2012	8	日帰りキャンプ(カヌーで冒険)	金武町のキャンプ場	野外活動
2013	2	冬の海ヘレッツゴー	八重山教育事務所	見立ての活動
2013	5	ギョ! ギョ!! ギョ!!! ビックリ水族館 IN 琉大	琉球大学構内	見立ての活動
2013	7	ギョ! ギョ!! ギョ!!! ビックリ水族館 IN 八重山	八重山教育事務所	見立ての活動
2013	8	琉大★海底探検!	琉球大学構内	見立ての活動
2013	8	日帰りキャンプ(どろんこクルージングパート2)	金武町のキャンプ場	野外活動
2014	2	海底探検in八重山	八重山教育事務所	見立ての活動
2014	5	海であそぼう! ~風と水の女王~	琉球大学構内	見立ての活動
2014	6	海であそぼう! 新聞びりびり	八重山教育事務所	見立ての活動
2014	7	日帰りキャンプ	金武町のキャンプ場	野外活動
2014	9	海のおまつりワールド~海人になってみよう~	八重山教育事務所	見立ての活動
2014	10	海であそぼう! タコクラゲ!? バルーン	多良間保育所	見立ての活動
2015	2	流水を渡って冬の海で遊ぼう!	多良間保育所	見立ての活動
2015	2	流水を渡って冬の海で遊ぼう!	八重山教育事務所	見立ての活動
2015	6	水風船アート~海の世界を表現しよう~	八重山教育事務所	見立ての活動
2015	7	海の世界を作って遊ぼう	多良間幼稚園	見立ての活動
2015	11	おおなみ、こなみ ~布の波であそぼう! ~	八重山教育事務所	見立ての活動

表9 学校で行った『海』を活かした授業実践

年	月	企画名	場所	形態
2011	7	みんなで海を作ろう 海で遊ぼう	石垣市立登野城小学校	見立て遊び
2011	9	ペタペタコロコロうみのせかい	沖縄県北部地区小学校	創作活動
2013	6	ギョ！ギョ！！ギョ！！びっくり水族館	那覇市立小禄小学校	創作活動
2013	7	幻想美ら海水族館	沖縄市立比屋根小学校	見立て遊び
2013	7	ギョ！ギョ！！ギョ！！びっくり水族館	沖縄市立比屋根小学校	創作活動
2014	2	海底探検！	那覇市立小禄小学校	見立て遊び
2014	10	プールの海で遊ぼう！ ～魚釣りとジンバイざめとシャワートンネル～	沖縄市立比屋根小学校	プール 見立ての活動
2015	9	水に浮かべよう	中城村立中城南小学校	プール

の巡回相談、月1回の校内委員会を実施するとともに発達支援教育実践センターで複数の子どもたちを対象に定期継続支援を実施した。

事業名：『附属学校におけるインクルーシブ教育システム構築モデル事業と発達障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域との協働支援体制の整備』事業

協働機関：附属小学校、八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉保健所、多良間村教育委員会

実施期間：平成27年4月～平成28年3月

#### 7) 公開講座

事業名：『気になる子どもの理解・子育て・支援—子どもの育ちと学びを支えるトータル支援—』

協働機関：石垣市、宮古島市、久米島町、竹富町、与那国町、八重山教育事務所、宮古教育事務所

実施期間：平成27年6月21日（石垣会場：石垣市立図書館）、平成27年7月4日（宮古会場：宮古中央公民館）

#### 8) ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）事業

事業名：『離島やへき地と近隣地域との協働による「トータル支援教室」における実践力養成』

協働機関：中頭教育事務所、八重山教育事務所、沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会

実施期間：平成27年4月～9月

#### (4) 学校、保育園訪問支援活動

本年は那覇市、宜野湾市を中心に学校、保育園

の訪問支援を行った。保育園を含め10学校・園に訪問し相談を受けた。そのうち8園は月1回定期巡回の訪問支援となった。

#### (5) 他機関および附属小・中学校との協働支援

##### 1) 八重山教育相談支援 八重山教育事務所との協働支援

発達・教育相談会、実践事例研究会、トータル支援教室における特別支援教育の実践力養成支援

##### 2) 宮古教育相談支援 宮古教育事務所との協働支援

発達・教育相談会、協働会議、トータル支援教室における特別支援教育の実践力養成支援

##### 3) 多良間特別支援教育支援員養成支援

多良間村教育委員会、宮古教育事務所、宮古福祉保健所との協働支援  
トータル支援教室における特別支援教育の実践力養成支援

##### 4) 沖縄市・浦添市研究授業

沖縄市教育委員会（沖縄市比屋根小学校）、浦添市教育委員会との協働支援

「トータル支援教室」と比屋根小学校、内間小学校との共同研究

##### 5) 協働支援 附属小学校との連携支援

校内委員会の実施、子どもの適応支援

### 3. 学生、院生、特別研究員への教育活動

#### (1) 実践トータル支援活動

発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、将来、発達支援教育、特別支援教育に貢献できる学生や院生を育成するこ

と、子どもたちの支援教育に携わる研究員の実践力を高めることを目的として教育活動を行っている。実践トータル支援活動のなかで「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害者支援特論」を受講すると担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。当センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる人材を育てる教育を行っている。

## (2) 実践事例研究会

実践事例研究会において、院生、特別研究員が実践事例の報告を行い、特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、医師、言語聴覚士、大学教員、院生、特別支援教育支援員などの参加によりコメントをもらった。院生においては「障害児臨床心理学特論」の講義に実践事例研究会を位置づけており、発達支援教育の理解を深めるためのアフターカンファレンスを実施している。

### 1) 実践事例検討会による院生への実践教育および特別研究員のリカレント教育

第93回、第94回、第96回、第97回、第99回、第103回は特別研究員、第93回は発達支援教育実践センターの専任教員、93回、第101回は発達支援教育実践センターの相談員が実践事例を報告した。参加者と事例について議論を行い、多面的な意見をもらった。

#### ・第93回 実践事例研究会 (第18回特例会) 東海地区遠征研究会

発表者：センター専任教員、小学校教諭、法務教官、センター相談員、

タイトル：『トータル支援教室で考えてきたこと…あれこれ…』

『「向かう力」と「受けとめる力」が生まれる支援の工夫～特別支援学級と通級指導教室の連携による取り組み～』

『トータル支援教室に参加した育ちの気になるA君の7年間をふりかえって』

講師：神野 秀雄 (愛知淑徳大学 教授)

日時：3月14日 14時～17時30分

場所：愛知淑徳大学

参加者：16名

#### ・第94回 実践事例研究会

発表者：小学校教諭 (特別研究員)

タイトル：『学校における「トータル支援」の展開；楽しみのなかから生まれてくる「向かう力」と「受けとめる力」～通級指導教室と特別支援学級の合同実践～』

日時：3月22日 14時～16時30分

場所：琉球大学生涯教育研究センター3階301、宮古サテライト会場

参加者：14名

#### ・第96回 実践事例研究会

発表者：指導主事、特別支援学校教員 (特別研究員)

タイトル：『自立活動における実践の検討』

日時：5月20日 18時30分

参加者：11名

#### ・第97回 実践事例研究会

発表者：小学校教員 (特別研究員)

タイトル：『小学校での自立活動における実践の検討』

日時：6月29日 18時30分

参加者：13名

#### ・第98回 実践事例研究会

発表者：センター専任教員

タイトル：『気になる子どもたちの集団支援における「向かう力」の生成～トータル支援の実践をふりかえって～』

日時：7月15日 18時30分

参加者：12名

#### ・第99回 実践事例研究会 (第19回特例会)

発表者：村上 公也 (キミヤーズ塾塾長、元小学校教諭)

琉大トータル支援スタッフ (教諭、特別研究員)

タイトル：『子どもも大人も生き生きと過ごし活躍できる教育実践を考える』

日時：8月1日 14時～17時30分

参加者：13名

#### ・第101回 実践事例研究会

発表者：センター相談員

タイトル：『発達障害のある子どもの集団支援と教育実践』

日時：10月21日 18時30分

参加者：4名

・第103回 実践事例研究会(第20回特例会)

発表者：センター専任教員、指導主事、小学校教諭(特別研究員)

タイトル：『発達障害等のある子どもたちへのトータル支援教室の意義～学校現場での実践の成果と今後に向けて～』

講師：浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授)

麻生武(奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授、奈良女子大学名誉教授)岡田美智男(豊橋技術科学大学教授)

日時：12月6日 10時～12時30分

場所：総合文系研究棟3階302教室

参加者：18名

## 2) 公開発達支援教育実践セミナー

公開発達支援教育実践セミナー『発達障がいのある子どもたちと「ともに楽しむ」集団支援と教育実践から考える—他者との関係性を基盤とした「向かう力」を育む「トータル支援」—』

日時：12月5日 土曜日 10時～17時

会場：琉球大学法文学部 法文新棟215教室

後援：沖縄県 沖縄県教育委員会

沖縄県発達障害者支援センター

参加者：約120人

司会：浦崎武：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター専任

講師：浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授)麻生武(奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授・奈良女子大学名誉教授)岡田美智男(豊橋技術科学大学情報・知能工学系教授)

プログラム：

第1部：「ともに楽しむ」トータル支援と教育実践の取り組み

・10時10分～11時20分

『トータル支援からはじまる授業実践—個別支援、集団支援からの気づきと現場での活かし方—』

瀬底正栄(浦添市教育委員会指導主事・センター特別研究員)

『八重山地域のトータル支援—Aさんと支援者の変容をふりかえって—』

本間七瀬(石垣市立新川小学校教諭・セン

ター特別研究員)

次呂久真司(石垣市立石垣第二中学校教諭)

コメント 麻生武(奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授・奈良女子大学名誉教授)

浜田寿美男(奈良女子大学名誉教授・立命館大学特別招聘教授)

・11時30分～12時30分

講演：『「弱いロボット」たちと考える子どもたちの発達と学び』

岡田美智男(豊橋技術科学大学 情報・知能工学系教授)

第2部：トータル支援教室で考えてきた集団支援と教育実践を考える

・13時30分～15時50分

・『トータル支援教室で学んだこと～9年間をふりかえって～』

武田喜乃恵(発達支援教育実践センター相談員)

・『子どもと教師の向かう力と受け止める力が生まれる教育実践—支援学級と通級指導教室の連携から』

末吉麻紀(沖縄市立比屋根小学校教諭)

・『学校のチャンスを活かした共に学び育つ集団作り～管理職の経験から』

崎濱朋子(読谷村立古堅小学校校長・センター特別研究員)

## (3) センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、当センターでの取り組みに参加し実践を学ぶことをねらいとして、学部への提供授業『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』を開設している。また、特別支援教育専攻の選択必修授業を担当している。平成27年度は以下の授業を担当した。

・学部1年～4年「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」

・大学院「特別支援教育特論B」大学院「障害児臨床心理学特論」

・大学院「軽度発達障害者支援特論」大学院「障害児教育の実践研究V」

## (4) センター特別研究員およびセンター事業による研究論文

12月5日に実践研究の公开发表を行った事例を中心にトータル支援活動および事例研究会の研究成果を以下の論文にまとめた。

・平成28年3月(浦崎武・武田喜乃恵)自閉症

- スペクトラム障害児への関係発達の支援による  
集団支援と教育実践—「トータル支援」を通し  
た「過ごす力」と「向かう力」を育む支援論—
- ・平成28年3月（瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武）多動性のある児童の＜向かう力＞を受けとめる支援の実践
  - ・平成28年3月（大城麻紀子・武田喜乃恵・浦崎武）トータル支援教室の取り組みを学校で実践するために—アクティブラーニングとしての「自立活動」の試み—
  - ・平成28年3月（本間七瀬・武田喜乃恵・浦崎武）高機能自閉症をもつ小学生男児の6年間の変容過程～トータル支援と学校における重要な他者との関係性の変容～
  - ・平成28年3月（崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武）子どもと教職員の＜向かう力＞と＜受け止める力＞が生まれる教育実践～学校のチャンスを活かしたともに楽しむ取り組みを通して～
  - ・平成28年3月（浦崎武・武田喜乃恵）学齢期における自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援と「自立活動」による教育実践—「ともに楽しむ」体験と「向かう力—受けとめる力」を育む「トータル支援」—
  - ・平成28年3月（武田喜乃恵）集団参加に苦手さのある自閉症スペクトラム障害児への支援—小学校の特別支援学級における自立活動の授業実践から—

#### 4. 研究教育活動

##### (1) 実践事例研究会

平成18年10月から月1回定期、水曜日に院生、現職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者、その他の近接領域の関係者が参加して実践研究を行ってきた。第4回は特例会として麻生武氏(奈良女子大学現名誉教授)、山上雅子氏(京都女子大学元教授、心理相談室ハタオリドリ)がコメンターとして参加された。また、第11回には浜田寿美男氏(奈良女子大学現名誉教授)、麻生武氏、山上雅子氏の他、京都の発達研究会との共同研究会が開かれた。第22回は京都発達研究会から山上雅子氏をお招きして開催された。また、第24回の特例事例研究会では発達支援教育実践センターの研究会メンバーが奈良女子大学に出向き、第2回沖縄・京都発達研究会合同研究会が開かれた。関西地区以外にも東北地区、関東地区、中部地区からも参加者が来られた。第47回(第8回特例会)事例研究会では滝川一廣氏(学習院大学教授)を、第48回(第9回特例会)事例研

究会では滝川一廣氏と浜田寿美男氏をお招きして開催した。

平成24年度は、第59回(第10回特例会)事例研究会で、田中千穂子氏(花クリニック臨床心理士)と古田直樹氏(京都市児童福祉センター臨床心理士)、平成25年度の第66回(第11回特例会)事例研究会で、麻生武氏と別府哲氏(岐阜大学)を、第67回(第12回特例会)は山上雅子氏を招聘して開催した。第76回(第13回特例会)事例研究会では古市真知子氏(中部大学)を、第77回(第14回特例会)事例研究会では山上雅子氏、赤木和重氏(神戸大学)をお招きして開催することができた。平成26年度は第89回(第16回特例会)事例研究会では村上公也氏(キミヤーズ塾)、遠矢浩一氏(九州大学)、第91回(第17回特例会)事例研究会では古田直樹氏、浜田寿美男氏を招聘し事例研究会を開催することができた。

平成27年度は、第93回(第18回特例会)では愛知淑徳大学へ出向いて神野秀雄氏(愛知淑徳大学 教授)と共同研究を行うことができた。

第99回(第19回特例会)では、村上公也氏(キミヤーズ塾塾長、元小学校教諭)、第103回(第20回特例会)では、浜田寿美男氏(奈良女子大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授)、麻生武氏(奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授、奈良女子大学名誉教授)、岡田美智男氏(豊橋技術科学大学教授)をお招きし開催した。

##### ・第92回 実践事例研究会

発表者：大学教員

タイトル：『発達障害のある子どもたちへの集団支援での取り組みからの報告』

日時：2月18日 18時30分

参加者：10名

##### ・第93回 実践事例研究会(第18回特例会) 東海地区遠征合同研究会

発表者：センター専任教員、小学校教諭、  
法務教官、センター相談員、

タイトル：『トータル支援教室で考えてきたこと…あれこれ…』

『「向かう力」と「受けとめる力」  
が生まれる支援の工夫～特別支  
援学級と通級指導教室の連携に  
よる取り組み～』

『トータル支援教室に参加した育  
ちの気になるA君の7年間をふ  
りかえて』

講師：神野 秀雄(愛知淑徳大学 教授)

- 日 時：3月14日 14時～17時30分  
場 所：愛知淑徳大学  
参加者：16名
- ・第94回 実践事例研究会  
発表者：小学校教諭（特別研究員）  
タイトル：『学校における「トータル支援」の展開；楽しみのなかから生まれてくる「向かう力」と「受けとめる力」―通級指導教室と特別支援学級の合同実践―』
- 日 時：3月22日 14時～16時30分  
場 所：琉球大学生涯教育研究センター3階301、宮古サテライト会場  
参加者：14名
- ・第95回 実践事例研究会  
発表者：大学教員  
タイトル：『障害のある子どもたちへの興味に基づいた教育的支援について―自傷の激しい視覚障害児の実践―』
- 日 時：4月15日 18時30分  
参加者：23名
- ・第96回 実践事例研究会  
発表者：指導主事、特別支援学校教員（特別研究員）  
タイトル：『自立活動における実践の検討』
- 日 時：5月20日 18時30分  
参加者：11名
- ・第97回 実践事例研究会  
発表者：小学校教員（特別研究員）  
タイトル：『小学校での自立活動における実践の検討』
- 日 時：6月29日 18時30分  
参加者：13名
- ・第98回 実践事例研究会  
発表者：センター専任教員  
タイトル：『気になる子どもたちの集団支援における「向かう力」の生成―トータル支援の実践をふりかえって―』
- 日 時：7月15日 18時30分  
参加者：12名
- ・第99回 実践事例研究会（第19回特例会）  
発表者：村上 公也（キミヤーズ塾塾長、元小学校教諭）  
琉大トータル支援スタッフ（教諭、特別研究員）  
タイトル：『子どもも大人も生き生きと過ごし活躍できる教育実践を考える』
- 日 時：8月1日 14時～17時30分  
参加者：13名
- ・第100回 実践事例研究会  
発表者：保育士  
タイトル：『A児の3年間を通して―保育園での実践―』
- 日 時：9月30日 18時30分  
参加者：24名
- ・第101回 実践事例研究会  
発表者：センター相談員  
タイトル：『発達障害のある子どもの集団支援と教育実践』
- 日 時：10月21日 18時30分  
参加者：4名
- ・第102回 実践事例研究会  
発表者：小学校教諭  
タイトル：『遊びを通じた支援と自立活動による教育実践』
- 日 時：11月18日 18時30分  
参加者：8名
- ・第103回 実践事例研究会（第20回特例会）  
発表者：センター専任教員、指導主事、小学校教諭（特別研究員）  
タイトル：『発達障害等のある子どもたちへのトータル支援教室の意義～学校現場での実践の成果と今後に向けて～』  
講 師：浜田寿美男（奈良女子大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授）  
麻生武（奈良女子大学理系女性教育開発共同機構特任教授、奈良女子大学名誉教授）岡田美智男（豊橋技術科学大学教授）
- 日 時：12月6日 10時～12時30分  
場 所：総合文系研究棟3階302教室  
参加者：18名
- （2）実践研究公開報告
- 12月5日の公開セミナー、トータル支援活動の成果および学校への還元した教育実践について当センターで実施した事業の実践研究の報告を行った。センター、八重山地域、学校現場におけるトータル支援活動の報告を行い、浜田寿美男氏（奈良女子大学 名誉教授）、岡田美智男氏（豊橋技術科学大学教授）が基調講演を、麻生武氏（奈良女子大学 名誉教授）から貴重なコメントを頂いた。公開セミナーと実践報告会は宮古、八重山、久米島等の地域へサテライト配信された。



### (3) 実践研究論文の作成

1 2月5日に実践研究の公開発表を行った事例を中心にトータル支援活動および事例研究会の研究成果を以下の論文にまとめた。

- ・平成28年3月(浦崎武・武田喜乃恵) 自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援による集団支援と教育実践―「トータル支援」を通じた「過ごす力」と「向かう力」を育む支援論―
- ・平成28年3月(瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武) 多動性のある児童の「向かう力」を受けとめる支援の実践
- ・平成28年3月(大城麻紀子・武田喜乃恵・浦崎武) トータル支援教室の取り組みを学校で実践するために―アクティブラーニングとしての「自立活動」の試み―
- ・平成28年3月(本間七瀬・武田喜乃恵・浦崎武) 高機能自閉症をもつ小学生男児の6年間の変容過程～トータル支援と学校における重要な他者との関係性の変容～
- ・平成28年3月(崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武) 子どもと教職員の「向かう力」と「受け止める力」が生まれる教育実践～学校のチャンスを活かしたともに楽しむ取り組みを通して～
- ・平成28年3月(浦崎武・武田喜乃恵) 学齢期における自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援と「自立活動」による教育実践―「ともに楽しむ」体験と「向かう力―受けとめる力」を育む「トータル支援」―
- ・平成28年3月(武田喜乃恵) 集団参加に苦しさのある自閉症スペクトラム障害児への支援―小学校の特別支援学級における自立活動の授業実践から―

### (4) 定期刊行物の発行

定期刊行物として「発達支援教育実践センター紀要」を発行している。平成28年3月には第7号を発行した。

### (5) 研究資料の提供

トータル支援教室の活動に関することや支援を受けている子どもたちとの関わりについて報告し、発達支援教育支援セミナーにおいて資料として配布した。

### (6) 助成金における研究

- 1) 沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業』プロジェクト

事業名：『気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築～「トータル支援教室」の学校支援の展開と『向かう力-受けとめる力』を育む教育実践～』

協働機関：沖縄市教育委員会（沖縄市立比屋根小学校他）と浦添市教育委員会との協働研究

実施期間：平成25年4月～平成28年3月

### 2) 海を活かした教育に関する実践研究(日本財団)

事業名：『海を活かした発達障がい児の支援教育プログラムの開発と実践研究』

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉保健所、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間：平成23年4月～平成28年3月

### 3) 大学中期計画プロジェクト

事業名：『附属学校におけるインクルーシブ教育システム構築モデル事業と発達障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域との協働支援体制の整備』事業

協働機関：八重山教育事務所、宮古教育事務所、宮古福祉保健所、石垣市教育委員会、宮古島市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会、多良間村教育委員会

実施期間：平成27年4月～平成28年3月

### 4) 公開講座

事業名：『気になる子どもの理解・子育て・支援―子どもの育ちと学びを支えるトータル支援―』

協働機関：石垣市、宮古島市、久米島町、竹富町、与那国町、八重山教育事務所、宮古教育事務所

実施期間：平成27年6月21日(石垣会場)、平成27年7月4日(宮古会場)

### 5) ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)事業：地域志向教育推進事業

事業名：『離島やへき地と近隣地域との協働による「トータル支援教室」における実践力養成』

協働機関：中頭教育事務所、八重山教育事務所、沖縄市教育委員会、浦添市教育委員会

実施期間：平成27年4月～8月

## 5. 講師・委員・相談員派遣活動

- センター専任 浦崎 武
- ・八重山地区特別支援教育総合推進事業運営協議会  
インクルーシブ教育システム整備事業運営委員  
期間：平成26年5月1日～平成28年3月31日  
開催日：第1回8月12日 第2回2月8日  
会場：八重山教育事務所
  - ・八重山地区特別支援教育専門家チーム委員会  
期間：平成24年4月1日～平成26年3月31日
  - ・島尻地区特別支援教育総合推進事業運営協議会  
インクルーシブ教育システム整備事業運営委員  
期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日  
開催日：第1回平成27年8月3日  
第2回平成28年1月27日  
会場：島尻教育事務所
  - ・障害児保育巡回指導員（宜野湾市における障がい児保育巡回指導）  
依頼期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日  
会場：月一公立保育所：1所、認可保育園：7園
  - ・那覇市就学指導委員会  
期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日
  - ・沖縄市立安慶田小学校校内研修講師  
開催日：平成27年5月26日  
会場：沖縄市立安慶田小学校
  - ・宮古圏域発達障害児（者）支援者研修会講師  
開催日：平成27年7月3日  
会場：多良間村コミュニティー施設
  - ・沖縄県立美咲特別支援学校評議員  
期間：平成27年7月2日～3月31日  
開催日：第1回7月2日  
第2回10月29日  
会場：沖縄県立美咲特別支援学校
  - ・沖縄県教育委員会平成26年度カウンセリング実践講座（特別支援教育）講師  
開催日：7月21日、22日、23日  
会場：県立総合教育センター
  - ・沖縄市立コザ小学校校内研修講師  
開催日：平成27年7月29日  
会場：沖縄市立コザ小学校
  - ・浦添市立教育研究所夏期講座講師  
開催日：平成27年7月30日  
会場：浦添市立教育研究所（浦添小学校内）
  - ・西原町・中城村・北中城合同教育講演会講師  
開催日：平成27年7月31日  
会場：さわふじ未来ホール
  - ・沖縄県立教育委員会免許法認定講習講師  
開催日：平成27年8月19日、20日  
会場：沖縄県立高等特別支援学校
  - ・沖縄県発達障害者支援センター連絡協議会成人部会  
開催日：第1回平成27年8月25日  
第2回平成28年3月8日  
会場：沖縄発達障害者支援センター
  - ・沖縄県発達障害者支援センター連絡協議会  
開催日：第1回平成27年8月25日  
第3回平成28年3月8日  
会場：沖縄発達障害者支援センター
  - ・金武町立金武中学校校内研修講師  
開催日：平成27年8月5日  
会場：金武町立金武中学校
  - ・沖縄市立コザ小学校校内研修講師  
開催日：平成27年7月29日  
会場：沖縄市立コザ小学校
  - ・座間味村心身障害児・生徒教育支援委員会  
開催日：平成27年10月25日  
会場：座間味村立座間味小中学校
  - ・第44回沖縄県特別支援学校研究大会分科会助言者  
開催日：平成27年12月11日  
会場：沖縄県立沖縄高等特別支援学校
  - ・中城村就学指導委員会（就学指導該当者判定会議）  
開催日：平成27年11月14日  
会場：中城村立津波小学校
  - ・宜野湾市障がい児等審査委員会  
開催日：平成27年12月17日  
会場：うなばら保育所、宜野湾市勤労青少年ホーム
  - ・那覇市母子保健推進協議会発達支援部会臨時委員  
開始日：第1回平成27年12月2日  
第2回平成28年1月6日  
第3回平成28年2月18日  
会場：那覇保健所
  - ・那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回  
時期：平成26年4月1日～平成28年3月31日  
開催日（会場）：1月8日（松川小学校）  
3月17日（小祿南小学校）
  - ・沖縄県特別支援教育推進事業運営協議会  
開催日：平成28年1月29日  
会場：県庁
  - ・インクルーシブ教育システム整備事業・構築モデル地域事業第2回運営協議会  
開催日：平成28年2月8日

- 会場：八重山教育事務所
- ・宜野湾市障がい児保育実践報告会講師  
開催日：平成28年2月24日  
会場：宜野湾市民会館
  - ・浦添市立中西小学校校内研修講師  
開催日：平成28年3月1日  
会場：浦添市立中西小学校
  - ・厚生労働省沖純労働局発達障害者専門指導監  
期間：平成25年4月1日～平成28年3月31日  
開催日：3月7日  
会場：ハローワーク名護
- 実施日：平成27年6月21日  
場所：石垣市立図書館
- ・浦添市立内間小学校通級指導教室 集団支援支援スタッフ  
実施日：平成27年6月26日、9月30日、10月30日、11月18日、12月16日  
場所：浦添市立内間小学校
  - ・宮古圏域発達障害児（者）支援者研修会講師  
開催日：平成27年7月3日  
会場：多良間村コミュニティー施設
  - ・沖縄市立比屋根小学校校内研究会 講師  
実施日：平成27年7月29日  
場所：沖縄市立比屋根小学校
  - ・浦添市立教育研究所夏期講座 講師  
開催日：平成27年7月30日  
会場：浦添市立教育研究所（浦添小学校内）
  - ・西原町・中城村・北中城合同教育講演会講師  
開催日：平成27年7月31日  
会場：さわふじ未来ホール
  - ・特殊教育学会自主シンポジウム  
『発達障がいのある子どもたちの＜向かう力＞を育む＜トータル支援＞ー＜ともに楽しむ＞集団支援と教育実践から育まれる力ー』と題したシンポジウムにて話題提供。  
『障害特性に応じたインクルーシブ教育の実践研究（1）ー自閉症スペクトラム、ADHD、ダウン症における通常学級のコミュニケーション支援ー』と題したシンポジウムにて話題提供。  
実施日：平成27年9月19日、20日  
場所：東北大学
  - ・浦添市就学指導委員  
期間：平成27年4月～2016年3月31日  
場所：浦添市教育委員会、浦添市内の幼稚園及び小学校
  - ・浦添市巡回指導員  
期間：平成27年4月～2016年3月  
場所：浦添市教育委員会、浦添市内の幼稚園及び小学校
  - ・発達支援教育実践セミナー実践報告  
『『発達障がいのある子どもたちと「ともに楽しむ」集団支援と教育実践から考えるー他者との関係性を基盤とした「向かう力」を育む「トータル支援」ー』』  
実施日：平成27年12月5日（土）  
場所：琉球大学法文新棟215教室
  - ・琉大附属小巡回相談及び授業観察  
実施日：1月27日、2月12日、3月11日
- ## 6. センター相談員の活動
- ・センター臨床活動（総数195件）  
子ども面接：34件  
子どもアセスメント：75件  
親面接：51件  
教員：35件
  - ・琉球大学トータル支援教室集団活動の企画、運営、スーパーバイズ  
実施日：平成27年1月～12月（計14回）  
場所：発達支援教育実践センター（琉球大学共通教育棟1号館403教室）
  - ・八重山トータル支援教室スタッフの企画、運営  
実施日：平成27年6月20日、7月31日、11月2日、12月8日  
場所：八重山教育事務所
  - ・中北部トータル支援教室の企画、運営  
実施日：平成27年8月8日  
場所：琉球大学構内
  - ・宮古トータル支援教室スタッフの企画、運営  
実施日：平成27年7月3日  
場所：多良間幼稚園
  - ・第93回 実践事例研究会（第18回特例会）東海地区遠征研究会 実践報告  
実施日：平成27年3月14日  
場所：愛知淑徳大学
  - ・第101回 実践事例研究会『発達障害のある子どもの集団支援と教育実践』報告  
実施日：平成27年10月21日  
場所：発達支援教育実践センター（琉球大学共通教育棟1号館403教室）
  - ・浦添市発達障害児（者）支援研修会  
実施日：平成27年4月3日  
場所：浦添市中央公民館
  - ・琉球大学 公開講座 講師  
「気になる子どもの理解・子育て・支援～子どもの育ちと学びを支える～」

5月26日、6月30日、7月17日

9月29日、10月27日、11月24日

12月8日

場所：琉大附属小学校

・琉大附属小校内ケース会議

実施日：1月29日、3月12日、6月24日

7月22日、9月2日、10月14日

11月25日、12月16日

場所：琉大附属小学校